技術報告

服装における女らしさ について

第2報 女らしさの評価基準

渡 辺 澄 子*
川 本 栄 子*
上 島 雅 子*
中 川 早 苗**

1. 緒 言

男女の役割分担や職業意識の変化、価値観の多様化がみられる現代の女子学生において¹⁾、服装における「女らしさ」の意味はどのようにとらえられているのであろうか。一般に「女らしさ」という言葉の中には女っぽい、お嬢さんっぽい、色っぽい、可愛い、優しい、しとやかな、弱々しい、消極的な、ひかえ目な、淋しいといったイメージまで多様な概念を含んでいる^{2,3,4)}。本報では、そのような多様な意味を持つ「女らしさ」という言葉を、服装を形容する言葉として使った場合、どのような服装が「女らしい」として評価され、さらに、それらはどのような評価基準で「女らしい」と評価されているのかを、服装の特徴から検討しようとするものである。

前報⁵⁾において、50の服装サンプルに対する「女らしさ」の評価を7段階評定で女子学生562名に調査した結果、平均評価得点5.88から2.58までの値で順位づけることができた。又、「女らしい」という評価は、「男らしい」という評価に対して-0.61という負の相関を得ているように、必ずしも一次的に強い反対の意味を持つものでもなく、又、女子学生の評価得点にもかなりのバラツキがみられた。このことは本報の検討しようとする評価基準の多様さを裏づけるものとも言える。

そこで著者らは、女子学生により7段階評定された服装サンプルを因子分析することによって、女らしさを評価する潜在的な何らかの共通の因子を抽出

*Sumiko Watanabe, Eiko Kawamoto, Miyako Ueshima, 松阪女子短期大学

**Sanae Nakagawa, 奈良女子大学

On the Womanliness of Clothings.

Part 2 : Evaluation bases on the Womanliness

By Sumiko Watanabe*, Eiko Kawamoto*,
Miyako Ueshima* and Sanae Nakagawa**

*Matsusaka Women's Junior College, Mie.

**Nara Women's University, Nara.

The purpose of this study is to investigate the criteria through which modern women students evaluate the womanliness of clothings worn in daily life. On the basis of the 7-point grading scale used by 562 women students to determine the womanliness of 50 samples of clothings in Part 1 of this study, a factor analysis has been made in terms of clothing samples. The following five criteria to evaluate the womanliness have been extracted. :

1. Factors related to body consciousness,
2. Factors related to sportiness, and casualness,
3. Factors related to polished and matured pants,
4. Factors related to decorativeness and loveliness, and
5. Factors related to slenderness.

(Received 10 Sept., 1987)

できるのではないかと考えた。そしてその共通の因子が服装における女らしさの評価基準であると考えた。さらに、これらの評価基準は女子学生自身の性格に対する評価によって相違があるのではないかと考え、併せて検討した。

2. 調査方法

前報に同じ

3. 分析方法

第1報で用いた服装サンプルに対する「女らしさ」の7段階評定結果を、被験者562名をケースとし、50服装サンプルを変数として因子分析を行った。次いで、各因子に対する被験者の因子得点を性格別に分散分析した。

4. 結果及び考察

4.1 女らしさの評価基準

因子分析に当たっては主因子法によって分析し、

因子数は固有値の大きさの極端な低下のみられる5因子までを有効と考え決定した。5因子までの累積寄与率は42.9%であった。さらに、これら5因子をVarimax回転した後、因子負荷量0.45以上を高い負荷量と考え、各因子を代表する服装サンプルから因子の解釈を行った(表1)。

すなわち、各因子は「女らしさ」意識の評価基準としてまとまったものであると考えられる。それらの服装を図1から図5までに示す。

又、図6から図8までは服装サンプルの各因子に対する因子負荷量をプロットしたものであり、第1報で得られた「女らしさ」評価順位上位8位までに○印を下位8位までに□印を付与している。

第1因子は服装サンプルNo. 8, No.46, No.17, No. 7 (図1) などであり、体の線が感じられ、や

や大人っぽく、セクシーな面もあるが、下品とは感じられず、むしろ上品なイメージの女らしさが感じられる。これらの服装の特徴からボディコンシャス因子と解釈した。

さらに図6から、この因子の評価基準においては、+側に女らしさの評価得点の高い服装サンプルが位置し、-側に得点の低いものが位置しており、ボディコンシャスを表現している服装ほど女らしいと意識されていることがわかる。

第2因子は服装サンプルNo.18, No.34, No.48, N.29 (図2) などで、いずれもボトムがスカート形式ではなくパンツスタイルであることが特徴である。又、パンツにもあらたまった感じのものからふだん着的なものまで含まれている。これらからパンツ因子と解釈した。

表1 服装における女らしさ評価の因子分析結果(因子負荷量)

サンプルNo.	I	II	III	IV	V
No. 8	0.831	-0.088	0.097	0.043	-0.021
No.46	0.766	-0.119	0.151	0.010	0.140
No.17	0.661	-0.026	0.244	0.159	0.053
No. 7	0.562	-0.077	0.081	0.115	0.252
No. 5	-0.558	0.419	0.213	0.072	0.154
No.32	0.549	0.097	-0.124	0.114	0.262
No.43	-0.510	0.379	0.315	0.140	0.204
No.14	0.454	0.169	-0.209	0.223	0.221
No.18	0.153	0.592	-0.160	-0.109	0.075
No.48	-0.454	0.548	0.258	-0.015	-0.018
No.34	-0.167	0.545	0.198	-0.070	0.055
No.29	0.238	0.533	0.085	0.081	-0.009
No.15	-0.205	0.519	0.239	-0.074	-0.023
No.19	-0.227	0.510	0.027	0.151	0.195
No.12	-0.050	0.487	0.030	-0.140	0.034
No.26	0.073	0.459	-0.037	-0.113	0.097
No.45	-0.295	0.458	0.373	0.149	0.050
No.30	0.427	0.454	0.084	0.158	-0.108
No.42	0.091	0.046	0.576	0.276	0.055
No.35	-0.016	-0.008	0.574	0.294	0.272
No. 9	-0.028	0.255	0.549	0.310	-0.123
No.21	-0.245	0.364	0.510	0.098	-0.072
No.36	0.267	0.072	0.484	0.192	0.082
No.20	-0.084	-0.014	0.032	0.596	0.213
No.25	-0.038	-0.023	0.224	0.549	0.137
No.23	0.276	-0.205	0.143	0.547	0.173
No. 1	0.385	-0.115	0.058	0.459	-0.053
No.38	0.068	-0.003	0.193	0.108	0.496
No.44	-0.078	0.168	0.002	0.169	0.485
No.47	0.079	0.067	0.040	0.195	0.459
寄与率 (%)	16.0	12.8	6.2	4.4	3.5
累積寄与率 (%)	16.0	28.9	35.0	39.5	42.9

No. 8

No. 46

No. 18

No. 34

No. 17

No. 7

No. 48

No. 29

図1 ボディコンシャス因子

図2 パンツ因子

No. 35

No. 42

No. 9

図3 子供っぽさ因子

No. 20

No. 25

No. 23

図4 可愛らしさ因子

No. 38

No. 44

No. 47

図5 ロマンチック因子

図6 第Ⅰ因子軸，第Ⅱ因子軸における服装サンプルの布置

図7 第Ⅲ因子軸，第Ⅳ因子軸における服装サンプル布置

図8 第I因子軸，第V因子軸における服装サンプルの布置

図6から，この因子については，パンツスタイルは女らしくないと評価されていることがわかる。

第3因子は服装サンプル No.35, No.42, No.9 (図3)などで，Tシャツや短いキュロット，ジャンパースカートなどの組み合わせによるいずれもセクシーさを感じさせない子供っぽい服装である。これらから子供っぽさ因子と解釈した。

図7から，この因子については，このような子供っぽい服装は女らしくないと評価されていることがわかる。

第4因子は服装サンプル No.20, No.25, No.23 (図4)などであり，ピンク系の配色で，フリルやリボンなどを多く用いた，デコラティブな可愛らしさを意識させる女らしさの評価基準である。これらから可愛らしさ因子と解釈した。

図7から，可愛らしさを表現する服装は女らしいと意識されている。

第5因子は服装サンプル No.38, No.44, No.47で，いずれもフレアーやブリーツのたっぷりはいった長いスカートでクラシックなイメージを持っている。これらからロマンチック因子と解釈した。

図8から，これらの服装は女らしいと意識されている。

以上のように，現代の女子学生が考えている服装における女らしさの基本因子をあげることができた。服装スタイルに対してボディラインを意識することは，女子学生自身がボディに対して強い関心を持っている現れであると考え。又，服装のユニセックス化が進む現在でも，男性はズボン，女性はスカートという認識が継承されていることも認められた。さらに，調査対象に18～20歳が多いことから，服装によって大人の女らしさを表現したいというあこがれがあるためか，その服装が子供っぽいか大人っぽいかによって，女らしさを意識しているのではないかと考える。一方，可愛らしさ因子が出現してきたことは，女子学生の中に「可愛らしさ」のイメージを捨て切れないでいることもわかる。これらの要因が現代の女子学生が服装における女らしさを評価する際の潜在的な意識となっている。

4.2 女らしさ評価基準と性格との関連

女らしさの評価基準に対する因子得点を算出し，評価者自身の性格によって女らしさの評価基準に対するウェイトが異なるか否かを検討した(表2)。調査対象者の性格は第1報と同様に8つの性格を表す形容詞対に対して，非常に，やや，どちらとも，

表2 女らしさの評価基準と性格との関連

性 格	I	II	III	IV	V
感 情 的・理 性 的	*		**		
積 極 的・消 極 的		*	*		
地 味・派 手			**		
おとなしい・活 発			*		
現 実 的・ロマンチック					*
子供っぽい・大人っぽい			**		
進 歩 的・保 守 的			**		
反 抗 的・従 順 な					

*危険率5%, **危険率1%で有意差あり

やや、非常にの5段階で評価したが、ここでは「非常に」と「やや」をまとめて3段階とし調査対象者を3グループに分けた。例えば、感情的・理性的の性格では非常に感情的、やや感情的と答えたものを1グループとし、どちらとも言えないものを1グループ、やや理性的、非常に理性的と答えたものを1グループとした。以下の性格についても同様に3グループに分けた。次にこの3グループ間に、女らしさの評価基準に対する個人の因子得点の差がみられるかどうかを分散分析した。その結果、性格による因子得点の違いは特にⅢ因子に多く認められ、Ⅰ因子、Ⅱ因子、Ⅴ因子にも一部の性格との間に有意差が認められた。

ボディコンシャス因子においては、感情的な人はこの因子に強く評価の基準を置いている。パンツ因子においては、積極的な人がよりこの因子を強く意識している。子供っぽさ因子においては、消極的でおとなしく、子供っぽい人はこの因子を強く意識しており、理性的で積極的、活発、派手で大人っぽい性格の人は、子供っぽさ因子を女らしさの評価基準としてあまり考えていない。ロマンチック因子においては、現実的な人はこの因子を重視しているとい

う傾向がみられた。

以上のように、服装から女らしさを評価する場合、その評価の基準は評価者自身の性格に影響されていることがわかった。

5. 結 言

本報告は、現代の女子学生が日常よく着用する衣服において、服装における女らしさをどのような基準でとらえているかを知ることを目的としたものである。女子学生562名に50の服装サンプルに対して女らしさを評定させ、その反応をもとに服装サンプルを変数として因子分析を行った。その結果、次にあげる5つの女らしさの評価基準を抽出することができた。

- 1) ボディコンシャス因子
- 2) パンツ因子
- 3) 子供っぽさ因子
- 4) 可愛らしさ因子
- 5) ロマンチック因子

以上5つの評価基準で女子学生が服装における女らしさをほぼ評価していることがわかった。又、これらの評価基準に対するウェイトのおかれ方の違いは、評価者自身の性格に影響されていることが明らかとなった。

本研究の一部は、日本繊維機械学会の昭和62年被服心理学研究分科会研究発表会（名古屋）において発表した。

参考文献

- 1) 総務庁青少年対策本部編 “現代青年の生活と価値観”，p. 108，大蔵省印刷局（1986）
- 2) “国語大辞典”，p. 414，小学館（1982）
- 3) M-A デカン，“流行の社会心理学”，p. 168，岩波書店（1982）
- 4) 駒尺喜美：衣生活，30，3，10（1987）
- 5) 中沢，高林，中川：繊維誌，41，No. 5（1988）

新刊紹介

繊維染色のFA・FMS化

B 5 判，520頁，定価5,850円（送料共）

繊維社刊（大阪市東区北久太郎町2-60，東本町ビル，TEL. 06-251-3973）

我国の繊維・染色加工業界は、円高による海外市場での輸出競争力低下、アジア NICS からの製品輸出攻勢、国内市場の多様化・高級化等々、今日、まさに激動期の渦中にあるといっても過言ではありません。各社でさまざまな対応策が講じられていますが、“多品種・少量・短納期対応と高付加価値商品への展開”がその骨子であることは一致する所です。従って、こうした時代のニーズに合わせた新しい生産体制、すなわちFA・FMS化が急速に進展してきましたが、このほどその手引書となる『繊維・染色のFA・FMS化——激動期への対応と実践集——』が刊行されました。本書は繊維・染色加工関連の各工程の自動化・省力化・コストダウン・生産性向上・品質向上・高付加価値化のための各種システム化技術と実例を集大成しています。